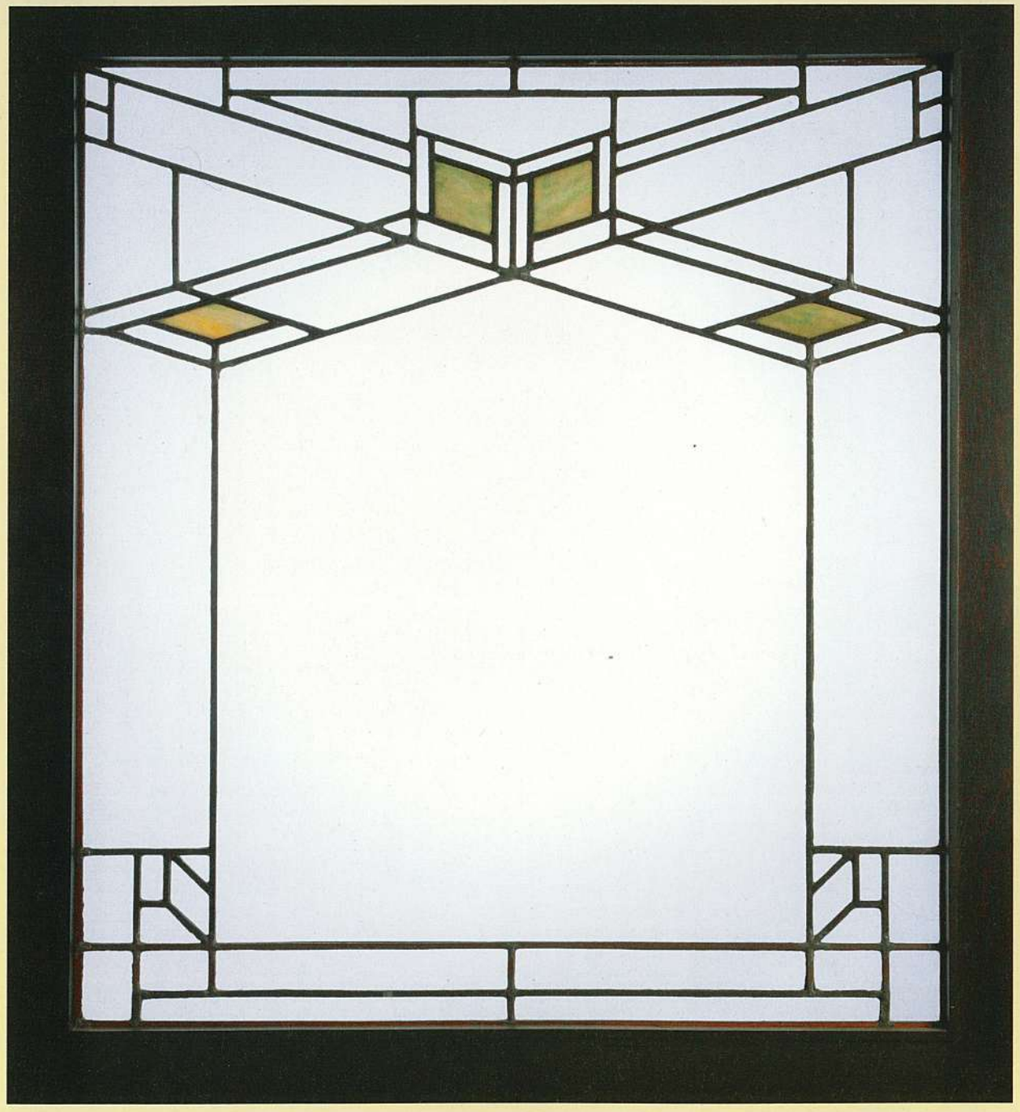
# MEIJI MURA

# 明治村だより

Vol.52 2008 Summer


日系移民のあゆみ 2
ブラジル移民住宅 2
シアトル日系福音教会 3
夏の催しもの 4
米国最強の二世部隊を作った明治の武士道　本田正文 5
明治の時計 6
A La Meiji-mura 7

平成 20 年 7 月 3 日発行

**「明治村だより」第 52 号（平成 20 年　夏）**

発　行　博物館明治村
〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地
電話（0568）67-0314
http://www.meijimura.com

製　作　大日本印刷株式会社


『明治村 だより』　第 53 号発行のお知らせ
発行時期　平成 20 年 9 月初旬（予定）
申込方法「明治村だより」第 53 号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料 140 円切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙　R. エヴァンス邸のステンドグラス
（フランク・ロイド・ライト　デザイン）
帝国ホテル中央玄関に展示中

# 日系移民のあゆみ

二〇〇八年はブラジルへの移民が始まって百年、ハワイへ最初の移民が渡って百四十年の記念すべき年、博物館明治村では明治～大正時代にかけて海を渡った移民ゆかりのハワイ移民集会所、シアトル日系福音教会、ブラジル移民住宅の三棟の常設展リニューアルを行いました。

## ブラジル移民住宅

### ブラジルへの移住　～笠戸丸に乗って～

一九〇八（明治四十一）年四月、ブラジルへの移民七八一名を乗せた笠戸丸（写真1）が神戸港を出港し、六月サントス港に入港しました。これが記念すべき第一回のブラジル移民で、ちょうど百年前のことです。

ハワイ、北米への移民が排日気運の高まりによって狭まり、次の移民先としてブラジルが注目されるようになりました。

第一回の移民募集を行ったのは水野龍を社長とする皇国殖民株式会社です。

「…内地ハ凡テ丘陵起伏シ地味極メテ肥沃ニシテ農耕ニ適シ珈琲、砂糖、綿、米穀ノ耕作ニ肥料ヲ用ユルノ要ナシ…（中略）…日露戦勝ノ結果我日本人ヲ尊敬スル傾キ有ル…」（原文引用）

募集において、ブラジルは「舞楽而留（ブラジル）」という造語を用い土地も肥沃で、ブラジル人も好意的で、この地でコーヒー栽培に従事すれば金が儲かると宣伝されました（写真2）。移民たちは短期間ブラジルで一儲けしたら日本へ帰国しようと渡伯したのです。また、ブラジルへの移民募集でこれまでと違う点は家族での移民が条件として出されていた点にもあります。

写真1　笠戸丸模型

写真2　舞楽而留状況書　部分

### 移民の生活

第一回の移民は、ブラジル人が経営する農園に労働者（コロノ）として配耕され、ブラジル人監督の厳しい監視の下、早朝から日没まで働いていました（写真3）。油っこく塩辛いブラジルの食事など生活習慣の違いと、奴隷解放から二十数年しかたっていないブラジルの農園主たちによる労働者の扱いは彼らを苦しめ、脱走するものが続出しました。

こうした現状から、第二回以降の移民はコロノとして働く他、原始林を開拓して「植民地」と呼ばれる集団農営地を造り、自営農としての道も模索し始めました。これにより、栽培品目もコーヒーだけでなく、米、綿花、野菜など多岐にわたり、特に野菜の栽培においては、その生産量の大部分を日系人農家が占めるようになりました。自分たちの土地を持ち、日本人同士が集まって住むことにより、日本と同じような生活を行う一方、ブラジルの文化を取り入れるようになりました。移民の意識も三年程度の出稼ぎから、もう少し長期での展望を持つように変化し、子弟の教育のための日本語学校なども建設されました。

### ブラジルの農機具について

移民たちは入植当初、日本とは違う道具を使用する作業に非常に戸惑いました。

コーヒーの実を収穫する際には、実を手でしごき落とし、ラステーロ（Rastelo）と呼ばれる熊手のような掻きよせ棒で集め、ペネイラ（Peneira）というふるいに入れ、実を高く放り上げてゴミや葉を取り除きます（写真4）。特にペネイラを使いこなすまでには時間がかかり、これが出来てようやく一人前となりました。

開拓作業においては、フォイセ（日本のナタとマサカリを兼ねた道具）やトランサ（二人びきの鋸）など、ブラジル独特の道具を使用し、現地の人々と協力しながら行われました。

### ブラジルにおける日系社会

移民たちは、天長節など機会があるごとに集まってはイベントを催していましたが、第二次世界大戦で連合国側になったブラジルにとって日系社会は敵性国であり、邦字新聞は廃刊、日本語による集会なども禁止されました。そのため終戦時、ポルトガル語を理解できない一部の日本人移住者に正しい情報が伝わらなかったため「勝ち組、負け組」事件が起こり、日本人同士での凄惨な殺人事件まで起りました。しかしサンパウロ市創立四〇〇年祭などをきっかけに「サンパウロ州情況書」（写真5）が神戸港を出港し、六月サントス港に入港しました。これが記念すべき第一回のブラジル移民で、ちょうど百年前のことです。

ハワイ、北米への移民が排日気運の高まりによって狭まり、次の移民先としてブラジルが注目されるようになりました。

第一回の移民募集を行ったのは水野龍を社長とする皇国殖民株式会社です。

「…内地ハ凡テ丘陵起伏シ地味極メテ肥沃ニシテ農耕ニ適シ珈琲、砂糖、綿、米穀ノ耕作ニ肥料ヲ用ユルノ要ナシ…（中略）…日露戦勝ノ結果我日本人ヲ尊敬スル傾キ有ル…」（原文引用）

募集において、ブラジルは「舞楽而留（ブラジル）」という造語を用い土地も肥沃で、ブラジル人も好意的で、この地でコーヒー栽培に従事すれば金が儲かると宣伝されました（写真2）。移民たちは短期間ブラジルで一儲けしたら日本へ帰国しようと渡伯したので

写真5　ブラジルでの七夕

日本文化協会」（現在のブラジル日本文化福祉協会）が設立され、日系社会はまとまりをみせるようになりました。

笠戸丸に始まる日本人移民は年々増加し、第二次世界大戦により一時断絶しましたが、戦後移民や二世、三世も加わり、現在では約百九十万人の日系人が住む世界一の日系社会を築いています（写真5）。また、逆に日本へやってくるデカセギとしてのブラジル日系人も国内に約三十一万人暮らしています。

今回展示を行う建物は一九一七（大正六）年にブラジルへ移住した久保田夫妻が日本人大工と共に原始林を開拓して建てた住宅です。最初から自営農として入植した夫妻は生活の落ち着いた三年目にこの住宅を建てています。スパニッシュ瓦をのせた、ブラジル風の造りにも見えますが、ブラジルにおける本格的な木造家屋は珍しく、継ぎ手や仕口などには日本の工法が使われています。今回のリニューアルでは今まで公開していた一階の納屋部分だけでなく、一部二階も公開いたします。日系移民の歴史と共に荒削りな柱梁や、天井裏など、移民が暮らしていた部屋の雰囲気も感じていただければ幸いです。


写真3　実を「摘む・集める」「在伯同胞活動資況大写真帖」より
須崎市竹下写真館提供

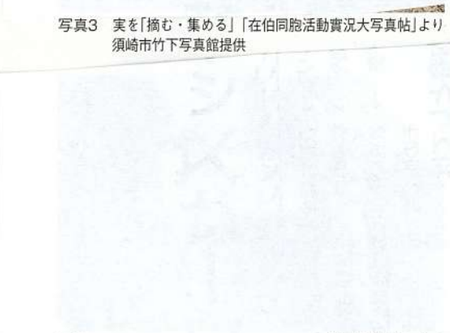


写真4　実を「ふるい」「在伯同胞活動資況大写真帖」より
須崎市竹下写真館提供



## シアトル日系福音教会

この建物は、一九〇七（明治四十）年にアメリカ合衆国ワシントン州のシアトル市に建てられました。最初の所有者はアメリカ人でしたが、一九三三年に日系一世の安武嘉一郎氏が住居として購入しました。

安武嘉一郎氏は一八九一（明治二十四）年、福岡生まれ、十六歳の時にサンフランシスコに単身で渡り、住み込みで働きながら学校に通いました。大学を卒業後、日本へ戻って結婚、単身シアトルに戻り職探しをします。一九一九年、貿易商会福川カンパニーの秘書として勤めることになり、妻を呼び寄せました。

最初の生活は貧しかったのですが、一九二〇年ごろ、安武氏の長年培ってきた英語力が認められ、シアトル市の移民局（Immigration and Nationalization Service：INS）に公式の通訳として採用されました。日本から到着したシアトル航路の移民船に経由地であるバンクーバーで乗り込み、そこからシアトルに着くまでの一昼夜の間に、移民のパスポートなどをチェックする仕事をすることもありました。安武氏と夫人は三人の男の子と一人の女の子に恵まれました（写真1）。その後生活に余裕ができたため、一九三三年、この家を購入しました。ところが、当時日本国籍を持つ者はアメリカで自分の財産を持つことができず、やむなく、同僚のアメリカ人女性の名義を借りることになりました。

安武氏はこの家の東側にロックガーデン（Rock Garden）と呼ばれる庭を造りました（写真2）。川や滝があり、池には鯉が泳いでいました。また、地下には書庫があり、日本式の風呂も設けられていました。

一九四一（昭和十六）年十二月八日、日本軍はハワイの真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まります。そのニュースが全米にラジオで伝えられたわずか二三時間後、安武氏はFBIによって逮捕されました。理由は、川柳の会「祖国会」に事寄せて何事か反アメリカ的な企てをしているのではということでした。もちろん、安武氏にとっては身に覚えのないことでしたが、他の「敵性外国人」とみなされた日系人たちとニューメキシコ州の戦犯収容所で三年間過ごすことになります。

また一九四二年、西海岸の日系人に立ち退き命令が出たことから、夫人と四人の子供たちはアイダホ州ミニドカにある日系人収容所（Relocation Center）に移動させられました。後に、戦犯収容所から釈放された安武氏と家族はテキサス州のクリスタルシティ収容所に移ります。一九四四年に立ち退き命令が撤回されると一家は息子達の通う大学のあるシンシナティへ移りますが、職を探してシカゴへと転居し、そこでやっと落ち着いた生活を送ることができるようになりました。

戦後、安武氏は一度日本に帰りたいと希望しましたが、戦時中の逮捕歴などによって、アメリカに再入国できない恐れがありました。しかし一九五二年にできた法律によって日系人の市民権取得が認められ安武氏も手続きを進めました。そして、一九五三年三月七日、市民権が認可されましたが、残念ながら安武氏はその

移築前のシアトル日系福音教会

写真1　安武氏の家族

写真2　ロックガーデンにて。安武氏（左）と友人たち

月の三〇日に亡くなってしまい、帰国の夢は果たすことができませんでした。

その安武氏から一九四九（昭和二十四）年にこの家を譲り受けたのが元田清子さんです（写真4）。

元田さんは一九〇〇（明治三十三）年に山口県下松市に生まれました。シアトルに居住している清木文助氏と日本で結婚、渡米します。文助氏は、夏の間アラスカで鮭の漁場の請負監督（フォアマン）をしていたため、清子さんも夏はアラスカ、秋冬はシアトル、という生活を送っていました。ところが、一九二八年、文助氏が喘息を悪化させ、心臓発作で亡くなってしまいます。清子さんは帰国も考えましたが、地元シアトルの県人会の方から元田永太郎氏を紹介され、再婚しました。元田氏は熱心なキリスト教徒で、夫に影響され、清子さんも洗礼を受けました。夫妻はアパート経営をしながら、キリスト教の伝道にも努め、日系人の相談に乗り、手助けをする事もありました。ところが、元田夫妻も、太平洋戦争の勃発と同時に安武氏の家族同様、ミニドカ収容所に強制移住させられました。夫妻は、収容所での生活の中でも信仰を忘れず、収容者の慰安や教育のために使うようにと私財を投入して、映写機を購入したこともあったそうです。戦後、夫妻がシアトルに戻ってくると、経営していたアパートは全てきちんと管理されており、居住者たちも夫妻が帰ってきたことを喜んでくれました。

そして、夫妻が購入し、ホリネス教会として使用したのがこの住宅です（後にシアトル日系人福音教会となる）（写真3）。翌一九五〇（昭和二十五）年には永太郎氏が、腎臓病の悪化から六十七歳の生涯を閉じました。

写真3　移築前のシアトル日系福音教会内部

写真4　建物引渡し式当日の元田さん

その後、清子さんは夫の経営していたアパート業務を拡充し、ホテルも経営、婦人実業家と称されるようになりました。そのかたわらで様々な奉仕活動を続けられ、日本政府から勲六等宝冠賞や紺綬褒章が授けられました。

徐々に日系一世が世を去り、この教会に勤めていた牧師も転居、英語で生活している二世のためのミサがここではできない、などという理由でこの教会は閉じられることになりました。長い間日系人の生活を見守ってきたこの住宅は、一九八四（昭和五十九）年、博物館明治村に移築されました。

明治から昭和の初めにかけて日本から移民した人々はほとんどが、アメリカで働いていつかは日本に帰ろうという出稼ぎ目的でした。しかし現実は厳しく、帰国費用もままならないまま永住を決意した人がほとんどでした。ある時は排日運動に翻弄され、財産も認められないままの生活。それに追い討ちをかけたのが日本とアメリカとの戦争でした。西海岸の住民は収容所に移動を余儀なくされたのです。戦後になってやっと、日系一世の方たちは市民権やアメリカ国籍を得ることができたのです。

この家はアメリカでは一般的な建売住宅ですが、このような苦労をした日系一世の住んだ家としてご見学いただければと思います。

## 夏の催しもの

**8/9（土）～17（日）**　夜9時まで開村　※荒天時は延長開村中止

期間中、浴衣姿の女性は終日入村無料（浴衣姿の男性は入村割引）

**■ライトアップ明治村「2008夏」**

（帝国ホテル中央玄関・内閣文庫・川崎銀行本店・隅田川新大橋・菊の世酒蔵・聖ザビエル天主堂・宇治山田郵便局・東山梨郡役所ほか）

**■9DAYS・JAZZナイト**

（帝国ホテル中央玄関前芝生広場特設ステージ）

地元名古屋を中心に活躍するバンドによる野外特設ステージでのジャズコンサート。

・19：00～、20：00～（各回約30分）

・出演／デニスウィルコックス、テンション他

**■花火競演**

（帝国ホテル中央玄関前芝生広場一帯）

・20：30～　※荒天中止

### 夏の明治村

**～8/31（日）まで**

**■明治の夏のくらし**（村内各所）

夏を涼しく過ごすための先人の工夫（釣しのぶ等）を紹介。

**■明治の涼霧（ミスト）**

（森鷗外・夏目漱石住宅前、札幌電話交換局横、聖ザビエル天主堂前、帝国ホテル中央玄関前、機械館前）

### 特別展

**「世界へはばたく ～日系移民のあゆみ～」**

**～9/28（日）まで**（三重県庁舎）

ブラジル移民100周年を記念して、ハワイ、北米そして南米へと移っていく移民の歴史を特別展で紹介するとともに、ブラジル移民住宅、ハワイ移民集会所、シアトル日系福音教会の常設展示を更新。

# 明治の時計

## 一、はじめに

三重県庁舎の修理保存工事で一時閉鎖していた「明治の時計」展示室が平成二〇年四月一日にリニューアルしました。

今回の展示では、前回の展示時計を中心に、輸入・国産時計を並列展示し、時計のデザインを比較しながらご覧頂けるようにしました。

## 二、西洋時計以前の「和時計」―櫓時計

国産の機械時計自体は、徳川家康が存命していた時、すでに登場していたようです。この時計は西洋から伝来した時計をもとに、不定時法の時刻を表示できるように工夫を加えて製作された機械時計「和時計」です。写真1は「櫓時計」と呼ばれ、錘を動力としています。時刻を示す時刻盤（写真2）には「十二辰刻」の時刻や「子丑寅卯…」の十二支の文字盤、年度を干支で示す暦日があるなど、西洋時計とは違う型の時計になっていることが分かります。また、櫓時計は台の部分などに見られる装飾の工芸的価値も高く大名たちに珍重されました。しかし、「和時計」は幕末に製作された万年時計を最後に明治以後は廃滅しました。

写真1

写真2

## 三、西洋時計の導入

明治になり外交や汽車・電信が発達してくると正確な時間が必要となり、和時計では支障が出てきたため、明治政府は明治六（一八七三）年、旧暦を廃すと時刻も昼夜を二四等分した現行の時刻法に改めました。当初は二四時間制に合う国産時計を生産することが不可能で、外国商館を通じ輸入した時計に頼る事になりました。

その後、国内でもアメリカやドイツなどの欧米の時計を研究し、模倣から新たな技術が創出され、明治十三年、金子元助（金元社）によって国産時計の製造が始まりました。

ここでは、輸入時計と国産時計、そして輸入時計と林時計（時盛社）の時計ラベルとの類似点を紹介します。

写真3

写真4

### ①四ツ丸掛時計

**イングラハム時計会社製（E.INGRAHAM.CO.）（写真3）**

**福田時計製造合資会社製 四ツ丸掛時計（写真4）**

日本の四ツ丸掛時計はイングラハム社の時計をモデルに製造したといわれています。当時、日本で四ツ丸時計といえば"イングラハム"と言われるほどイングラハム社の時計は有名でした。四ツ丸時計も八角時計と同時期に輸入されましたが、当初は、丸の配置が悪く八角時計と比べると人気が無く、なかなか人々に受け入れられませんでした。イングラハム社は不揃いな四ツ丸の丸のバランスを研究し、のちに今日目にするような丸の配置に到り「だるま時計」の愛称で、庶民に受け入れられ、八角時計と共に定着していきました。

福田時計の四ツ丸時計はイングラハム社の時計を模倣したといわれるものです。この二つを比較してみると時計の文字盤も算用数字ではなく、ローマ数字で表記し小さな丸も同じ配置にし、外見を同じ型に仕上げていることが分かります。またイングラハム社の四ツ丸時計は金

写真7

写真5

写真6

達磨と呼ばれる真鍮部分に金鍍金を施した時計が有名でしたが、これを模した福田時計は塗料が剥落していますが、表面が金色に見えるよう「箔下漆」を塗り、金箔を貼って仕上げるという、日本の伝統技法が使われています。当時、輸入時計には金属が使われていましたが日本ではまだ手に入りにくく、使用している素材は違いますが職人たちが輸入時計を忠実に仕上げようとしていたことが分かる一品です。

### ②ラベル

**輸入時計（写真5）**

**林時計（注1）中条勇一郎作の八角合長掛時計の時計（写真6・7）**

時計職人たちは、外見を模倣し国産時計を製造していましたが他にも類似点が見受けられます。それが振り子室に張られているラベルです。

明治初期に輸入されたニューヘブン社（NEW HAVEN CLOCK CO.）製の八角兵庫掛時計（注2）の振り子室ラベルには英字で "Patented June, 13, 1871. Octagon Eight Day Clocks, Silent, Striking, and Calender, For Hotels, Offices, Etc., ALL WARRANTED OF THE BEST QUALITY New Haven Clock. Co. New Haven, Conn., U.S.A."（一八七一年六月十三日特許品　八日巻き八角時計…中略…　品質保証　ニューヘブン社　ニューヘブン市　コネチカット州　アメリカ）のように「何日巻き時計」・「製造・販売元」の記載があります。

一方明治十九年頃、中条勇一郎が製作し、時盛舎が引き取った時計といわれている八角合長掛時計の振り子室のラベルには

"8, KAMAKITOKEI, SEIZONIN, AICHIKENKAOKASAKIRENJIACMATI, TIUJIO-YUJIRO, ITehanbaitocoroHAYASHLICHIBEI"

（八巻き時計、製造人、愛知県下岡崎連尺町、中条勇次郎、一手販売処、林市兵衛）と輸入時計と同じように「何日巻き時計」・「製造・販売元」の記載があることが分かります。明治期に製造された国産時計は殆ど人目に付く事の無い振り子室のラベルにも、輸入時計のラベルの形式等を模倣して製造していたという点は当時の国産時計を見ていく上で面白いのではないでしょうか。

## 四、終わりに

国産時計は、明治三十年代前半になると大量生産出来る会社が次々に設立され、明治三六年には輸出用時計が輸入時計をしのぐ生産量となり、明治の終わりに掛時計は輸出産業にまで成長していきました。日本の国産時計の製造は輸入時計の模倣から始まったものであり、「モノづくり日本」の原点を垣間見ることのできるものではないでしょうか。明治村の時計は毎週ネジを巻き動態展示を行っています。

「明治の時計」展示室で、当時のモノづくりの息吹に触れてみてください。

（注1）林時計（時盛舎）名古屋に設立した時計会社で工場に初めて蒸気機関を据え付け動力とし、時計の量産製造を行なっています。

（注2）八角兵庫掛時計の兵庫は立兵庫といい花魁の後姿のこと。花魁は後から見ると、頭に丸い輪を付けた髪形をしておりその形に似ていることからこの名がついた。



*A La Meiji-mura*

# 柱に込められた思い

●東山梨郡役所（二丁目16番地）

レンガ通りを見守るかのように建っている東山梨郡役所は、明治十八年に東山梨郡役所の新庁舎として山梨県日下部村に建てられました。明治六年から二十年まで、山梨県令として在任した藤村紫朗は、洋風化を強力に推進した人物として知られ、この地方ではこうした洋風建築を「藤村式」と呼んでいました。この建物が建設される以前には、すでに五十棟もの洋風公共建築が竣工していたそうです。つまり、こうした洋風建築の技法がこの地方では定着し、いずれの職種も習熟していた事が伺えます。

この建物の特徴は、大学で西洋建築を学んだ建築家ではなく、地元の左官・土屋庄蔵と職人達によって建てられた点と、洋風でありながら、日本の伝統的な木造技術を駆使して建てられた点にあり、洋風に似て非なる建築を意味する擬洋風建築であると言えます。土屋庄蔵は、琢美学校（明治七年）、甲府裁判所（明治八年）、山梨県庁舎（明治十年）の工事に、左官職として参加していて、すでに、洋風建築に豊富な経験を備えていたと思われ、今回は、その特徴がよく表現されているベランダの柱を紹介したいと思います。

写真1　胡麻殻決りの柱

この建物全体の印象としては西洋風と見られるこの建物の柱は、「胡麻殻決り」と呼ばれ、建物一階・二階の左右対象に配されています（写真1）。全ての柱には縦溝が彫られていて、径の小さな円柱を束ねたような形状となり、その断面は八枚の菊花柄の花弁のように見えます。この造形は、禅宗様の仏壇の一部に用いられたりします。また、この柱頭（写真2）には、八角形で下部に丸みを施した部材を二段に重ねて飾り、唐様（禅宗様）建築の礎盤（写真3）が柱下端に取りつけられていて、ここに西洋風な印象を与えながらも、同時に日本の伝統的造形を感じることができます。

ところで、この柱とは対照的な形をしたギリシャ・ローマの古典建築の柱は、五丁目の内閣文庫の正面に見られます（写真4）。その形は、「胡麻殻決り」とは違い、装飾溝（フルーティング）によって柱表面は凹面のヒダになっており、その柱の種類は、柱頭部分の装飾表現によって異なります。

では、何故このような建築が誕生したのでしょうか。これには複数の可能性が考えられます。一つは、東山梨郡役所の建設にあたり、地元の棟梁達が西洋建築の描かれた錦絵を参考にして建てたため、造形の細部まで見て取る事が出来ず、柱の側面の凹凸を逆に解釈してしまった。

二つ目の可能性としては、柱に礎盤が設けられていることから、柱全体を西洋のスタイルで創り出すのではなく、日本の棟梁の意匠や伝統的技術を表現しようとしたのではないかということです。

このように、建物の装飾一つを取ってみても、そこに至るまでには様々な経緯や可能性が考えられます。当時の職人達が何を見て、どうしてそのような装飾に行き着いたのか、という背景は定かでない事もあります。しかし、いずれにせよ、そこには単なる西洋建築の真似ではなく、日本の環境や好みを意識した、日本独自のスタイルが確実に息づいているように感じます。是非、職人達の意気込みをご覧下さい。

写真4　内閣文庫の柱

写真3　礎盤

写真2　柱頭